

PTA みやぎ

MIYAGI Parent-Teacher Association

地域ぐるみで育てよう、心豊かでたくましい「みやぎの子」

令和7年度代議員会	2
会長あいさつ	3
令和6年度優良PTA	
文部科学大臣賞を受賞して	4
第41回宮城県PTA連合会	
広報紙コンクール	5
PTAかわら版	6~7
第74回宮城県PTA研究大会	
丸森大会PR	8
お知らせ	8
編集後記	8

音楽がつなく親子のコミュニケーション

加美郡父母教師会連合会では、令和7年1月25日(土)に地区セミナーを開催しました。今回は、「音楽がつなく親子のコミュニケーション」と題して、国立音楽院宮城キャンパスの学生と加美町立広原小学校金管バンドによる演奏会を行いました。演奏会には約100名の方々に参加いただきました。

国立音楽院と広原小学校金管バンドそれぞれの演奏だけでなく、合同演奏でのステージもありました。また、演奏曲も様々なジャンルの曲があり、音楽の楽しさやすばらしさを体験しながら、親子のコミュニケーションのあり方を考える貴重な研修の機会となりました。

通信員 清末 泰成

令和6年度 加美郡父母教師会連合会地区セミナー
「音楽がつなく親子のコミュニケーション」



令和7年度代議員会

希望に満ちた新年度のスタートにむけて、令和7年度代議員会は令和7年5月24日（土）に開催されました。

開会に先立ち、開会行事が行われ、出席いただいたご来賓の方々からは、PTA活動に対する温かいご支援と期待のお言葉をいただき、改めてその役割の重要性を再認識する機会となりました。

代議員会では、令和6年度の事業および会計監査報告と安全互助事業の報告がなされ、令和7年度の活動方針や事業計画、会計予算、新役員について議案として提出されたすべての議案は承認されました。進行がスムーズに行われ、円滑な合意形成が実現したのは、出席者や関係者の様のご協力のおかげです。

今年度の活動方針は「地域ぐるみで育てよう、心豊かでたくましいみやぎの子」を主題に掲げて、子育てに関わる情報を会員に適宜提供することや課題解決に向けた活動、あいさつなどの基本的な生活習慣の確立についての実践活動、「第74回宮城県PTA研究大会丸森大会」に向けて、総力を結集して大会の運営にあたることなどの方針が示されました。

一方で、今年度の代議員会は定足数を満たし開催となりましたが、代議員から「各地区の意見を反映するためにも、より多くの方に参加してもらえるように働きかけてほしい」との意見があり、今後の課題として認識されました。

最後に新役員紹介と新旧役員からのあいさつがあり、長年にわたりご尽力いただき、今年度で勇退する役員の方々から平吹淳新会長から感謝状の授与が行われ、代議員会は終了となりました。

今後も、PTA活動の発展に向けて、各地区の保護者との連携を強化しながら、より多くの参加を促進していくことが求められます。本会の意義をより多くの方に理解していただけるように努めていきたいと考えています。

令和6年度調査広報委員 伊藤 拓也



開会行事であいさつをする浅野会長

役員紹介

役職	地区	氏名	役職	地区	氏名	役職	地区	氏名
会長	遠田	平吹 淳	常任理事	大崎	湯山 栄大	理事	富谷黒川	高橋 秀美
副会長	富谷黒川	畑山 和晴	常任理事	南三陸	星 岳大	理事	大崎	伊藤 伸浩
副会長	宮城	鈴木 洋市	理事	白石・刈田	半沢 健太	理事	遠田	齋藤 祐子
副会長	石巻	木村 奈緒子	理事	蔵王	新貝 英歴	理事	加美	中島 雅俊
副会長	富谷黒川	笠原 由佳	理事	柴田	佐藤 玲	理事	栗原	門脇 淳
副会長	名取	齋藤 勇介	理事	角田	遠藤 浩司	理事	石巻	大森 憲市
副会長	小校長会	土生 直樹	理事	丸森	鳥居 恵理香	理事	石巻	荒木 裕美
副会長	中校長会	高橋 禎毅	理事	亘理	建村 勇樹	理事	東松島	佐藤 桂
監事	丸森	菊地 利行	理事	岩沼	鎌田 潤一	理事	登米	石川 悟
監事	多賀城	星山 純一郎	理事	名取	相澤 祐輔	理事	気仙沼	菊田 光一
監事	大崎	仲村 克己	理事	宮城	庄子 嘉洋	理事	南三陸	舘寺 俊明
常任理事	遠田	大上 さつき	理事	塩竈	鈴木 昌晴			
常任理事	宮城	鈴木 幸恵	理事	多賀城	加藤 千恵			

会長あいさつ

宮城県PTA連合会の会員皆様には、日頃より本会の活動に深いご理解とご協力を賜り、誠

第35代会長 平吹 淳

Atsushi Hirabuki



プロフィール

家族構成：妻、娘、息子、福(犬)

血液型：AB型

座右の銘：一燈照隅 万燈照国

にありがとうございます。また、各地域において、日々子どもたちのために尽力されている会員皆様の温かいご支援に、心より感謝申し上げます。

このたび、宮城県PTA連合

会会長を拝命いたしました遠田郡の平吹 淳(ひらぶき あつし)と申します。歴史と責任あつこの役職をお引き受けするにあたり、身の引き締まる思いとともに、これまで地域とともに

歩んできた皆様とのつながりを大切にしながら、子どもたちの健やかな成長のため、全力を尽くしてまいります。

私がPTA活動に関わる中で常に心に抱いているのは、「子どもたちを明るく照らすPTAでありたい」という願いです。私たち大人が手を取り合い、家庭や学校、地域の中で子どもたちをあたたく見守る存在であること。それこそが子どもたちにとって最大の安心であり、前に進む勇氣になると信じています。

近年、私たちを取り巻く社会環境は急

速に変化し、PTAのあり方も見直しを求められる時代を迎えています。共働き家庭の増加、地域のつながりの希薄化、情報の多様化などにより、活動への参加が難しい、役員のなり手が見つからないといった課題に多くの学校が直面しています。PTAは「やらなければならぬもの」ではなく、「子どもたちのために自然と関わりたくなるもの」と考えます。

そのためには、PTAの目的を明確にし、活動内容を「見える化」することが重要です。なぜその活動を行うのか、その結果何が得られるのかを共有することで、多くの方の納得と共感を得ることができま

す。そして、あらためて大切にしたいのが「家庭教育」の力です。子どもたちは、まず家庭で人との関わり方や生活習慣を学びます。家庭教育と学校教育は、相互に補い合う関係にあります。PTAが、保護者同士のつながりを生み、学び合い、支え合える場を提供することで、家庭教育の質を高め、子どもたちの健やかな育ちにつなげていくこと

ができると考えております。

また、子どもたち一人ひとりが自分らしく、安心して過ごせる環境を整えることもPTAの大切な役割のひとつです。多様な価値観や家庭の状況に対する理解を深め、どの子どもも「私は大切にされている」と感じられるような学校・地域づくりに、皆様とともに取り組んでまいります。

PTAは特別な人が担う組織ではなく、「できるときに、できることを」という思いで誰もが関わられる、開かれた協働の場であるべきです。子どもたちの笑顔を支え、未来を照らす光となるPTA活動を、皆様と共に育てていけたらと強く願っております。

結びにあたり、あらためて皆様の温かいご支援と日頃のご尽力に深く感謝申し上げます。今後とも、子どもたちのために、家庭・学校・地域が手を取り合つて進んでいけるよう、ご理解とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



令和6年度優良PTA文部科学大臣表彰を受賞して

大崎市立三本木小学校PTA会長 千葉 明美

この度、私の母校でもある三本木小学校が令和六年度優良PTA文部科学大臣表彰を受賞し、大変嬉しく思います。本校は県北部、大崎市南部に位置し、地区唯一の小学校であり、学区民の教育に対する期待と関心が高く、地域をあげての協力体制が構築されている地域です。

152年の長い歴史のある三本木小学校は私が小学生だった頃からPTA活動が盛んで会員はもちろん、地域の方々とのつながりが強い学校でした。「子どものため」はもちろんですが、「大人も本気で楽しむ」ことを大切に、理念や時間を共有することで、その思いや愛情が引き継がれてきました。これまでの諸先輩方が築き上げてきた伝統が、今回の受賞につながったと感謝しております。

令和六年度も、会員一同志を一つに活動してきましたが、児童数の減少に伴った会員数の減少と負担の増加が課題で

あり、様々な工夫や改革を余儀なくされました。「無くしていいもの」「無くしてはいけないもの」を常に考えながらの活動の一年でもありました。

まずは、PTAの組織改革に着手し、役員の人数削減や活動内容の変更及び精選を行いました。特に、広報委員会については、人数を減らし、内容を精選することで負担感を軽減しました。具体的には、



広報委員会打合せ

年一回発行の広報誌「プラタナス」を、PTA活動中心の内容に変更しました。このことにより、各学年から選出されている広報委員の役割を明確にし、原稿依頼や記事の選定に積極的に関わってもらうことができました。同じように、学年委員の人数を減らしましたが、「ミニ運動会」などの親子行事を企画し大変盛り上がりました。その他にも、文化委員会主催の陶芸教室や



親子陶芸教室



PTA奉仕活動

総務委員会主催の奉仕活動、厚生委員の市P連運動会への参加など様々な活動ができました。

また、PTA本部役員が中心となって行う「夜の学校探



夜の学校探検

検」では、「三本木と学校をつなぐ会」の協力をいただきながら実施することができました。さらには、職業講話やメディアコントロール事業などでも協力をいただいています。



メディアコントロール事業

微力ながら、私は会長職を三年務めました。多くの先輩方が児童一人ひとりの未来へつながる支援をしてくださっていることを再確認することができました。日々受け継がれてきた伝統を今の時代に沿った形で改革しつつ、児童のよりよい成長につながるPTA活動に取り組んで参りたいと思います。本当にありがとうございました。

第41回宮城県PTA連合会 広報紙コンクール

審査のポイント

- ・PTA活動の実態を掲げているか
- ・読みやすさ、見やすさ、記事を生かす写真の利用がされているか
- ・積極的な企画性・アイデアがみられるか

去る、令和7年5月10日（土）に第41回宮城県PTA連合会広報紙コンクール審査会が開催されました。この審査会は、第47回全国小・中学校広報紙コンクールへ出品する広報紙を決定するもので、今年度は広報紙で小学校13校、中学校10校、WEB版で今年度初めて小学校1校の計24校の応募となりました。



審査は、宮城県教育庁生涯学習課課長補佐班長石川勝様、「PTAみやぎ」の印刷契約をしている有限会社南郷印刷代表取締役石川俊樹様、並びに本会の会長、副会長及び調査広報委員にて、厳正なる審査を行いました。

審査の結果、小学校の部は金賞2校、銀賞4校、佳作2校、中学校の部は金賞2校、銀賞2校、佳作2校、そしてWEB版では小学校1校が入賞しました。

審査委員からは、「子どもたちと保護者、そして教職員の思いがしっかりと入ったバランスの良い紙面が多かった」、「企画が工夫されている記事が多かった」、「文書の起承転結、紙面の構成、見やすいフォントを心がけるとさらに良く



なる」 「写真を多く使用し、見せる広報が多くなってきたように感じる」などの講評をいただきました。最後に、工夫に富んだ広報紙を作成された方々に、心から敬意を表します。この広報活動がPTA活動の周知、活性に繋がりを、親子の絆、地域と学校の架け橋になっていければと感じました。

宮城県内のPTA広報紙が全国でも受賞されることを期待しています。

調査広報委員長 湯山 栄大

第41回宮城県PTA連合会広報紙コンクール入賞団体

【小学校の部】

金賞

- 塩竈市立第一小学校父母教師会 『いずみ』
- 岩沼市立岩沼南小学校父母教師会 『あぶくま』

銀賞

- 栗原市立築館小学校PTA 『杉』
- 大崎市立古川第二小学校父母教師会 『トライアングル』
- 加美町立東小野田小学校父母教師会 『かけはし』
- 大河原町立大河原小学校父母教師会 『きらめぎ』

佳作

- 名取市立那智が丘小学校PTA 『おおぞら』
- 大崎市立鹿島台小学校PTA 『いしづえ』

【中学校の部】

金賞

- 宮城県古川黎明中学校PTA 『きらり』
- 川崎町立川崎中学校PTA 『川崎中学校PTAだより』

銀賞

- 大崎市立古川南中学校PTA 『みなみかぜ』
- 大河原町立金ヶ瀬中学校父母教師会 『ふれあい』

佳作

- 大崎市立古川東中学校父母教師会 『樫の木』
- 美里町立不動堂中学校PTA 『かけはし』

【WEB版】

- 大崎市立岩出山小学校父母教師会

○は全国広報紙コンクールに応募いたします。

かわら板

川崎町立川崎第二小学校では、毎年全校生徒が参加する「ししなご登山」を行っています。この取り組みは、地域の自然を体験し、仲間との絆を深める貴重な機会となっています。令和6年の登山は、4月26日（金）に開催されました。ししなご山は554メートルの高さを誇り、その麓に川崎第二小学校が位置しています。生徒たちは、山を登る中で協力し合いながら、目標に向かって一歩一歩進んでいきます。「みんなで協力して登り切る」という意気込みを持ち、辛いときこそ声を掛け合い、励まし合う姿勢が大切にされています。

この登山を通じて、生徒たちは自然の美しさを感じるとともに、仲間との絆を深め、達成感を味わうことができます。川崎第二小学校の「ししなご登山」は、ただの登山ではなく、心を育む大切なイベントとなっています。

柴田郡

ししなご登山

通信員 川部 美貴子



東松島市

参加したくなる PTAを目指して

通信員 熱海 光太郎

東松島市鳴瀬未来中学校では、開校以来、初の試みとして、生徒会、PTA、学校運営協議会と合同で「星を見る会」を企画、実施しました。当日は、転任した先生方や卒業生も参加し、わいわいと語りながら楽しみ、子どもたちにとって、記憶に残る良い時間になりました。

PTAの存在価値が問われる昨今ですが、このような、子どもたちのみならず、参加した人の記憶に残る体験や、豊かな時間を創り出すことができるのも、PTA活動の良さだと思います。

新しい年度でも引き続き、慣例にとらわれず、あれをやってみたい、これをやってみたい！を実現できる、参加してみたいようなPTAを目指して活動してまいります。



富谷黒川地区

富谷黒川地区 研修セミナー

5年ぶりの開催

通信員 伊藤 拓也



当地区PTAでは、5年ぶりに令和6年11月9日（土）に研修会を開催いたしました。研修会では『スマホはどれだけ脳を壊すか』というテーマで榊先生を講師にお迎えしました。再開にあたり様々な課題に直面しましたが、役員や関係者の協力のもと無事開催に至りました。

終了後のアンケートでは「良い内容だった」「子どもとかかわり方に役立った」という声が多く寄せられ、大変好評でした。この結果に励まされ、次回の研修会も積極的に進めていきます。

PTA



巨理郡

三味線、和太鼓
ライブに感動！

通信員 佐伯 智宏

巨理郡連合父母教師会では、令和6年11月9日(土)に郡Pセミナーを開催し、和楽者の鈴木臣吾さんが主催する「The BEACS (ビークス)」の皆さんによる津軽三味線、和太鼓ライブ『藍より青し』と題して公演していただきました。後半、参加された子どもたちにもステージに出てもらい、和太鼓の叩き方を教えていただき、BEACSの皆さんと一緒に『千本桜』を共演。



演奏された楽曲も大変素晴らしく、また和太鼓には迫力もあり、本当に楽しいひとときを過ごすことができました。参加された皆さんからも大好評でした。こういう音楽イベントも気軽に親子で参加できて良いですね。



南三陸町PTA連合会では、令和6年6月23日(日)に南三陸町PTA連合会スポーツ大会としまして、各学校対抗のバレーボール大会を開催しました。町内7校の小中学校の先生方、会員の皆さんが大勢参加し、交流の場として笑顔が溢れた一方、会場ではギャラリィからの熱い声援もあり、白熱した試合展開に、会場が揺れるほど盛り上がった大会となりました。大会後には「来年は優勝を目指したい」と意気込んでいる会員もいました。会員同士の絆が深まるPTA行事であるという認識の下、大事な交流の場として今後も開催を続けていきたいと思いをしました。

南三陸町

白熱した交流の場

通信員 小坂 健爾

宮城地区

『奇跡のいのちをつなぐ子供たちへ』
講師内田美智子氏をお招きして

通信員 若附 恵

令和6年11月30日(土) 松島町文化観光交流館にて、宮城地区PTA連合会文化セミナーを開催いたしました。講師の内田美智子氏は助産師・思春期保健相談士として活動しており、子育て・家庭教育に関する貴重なお話を聴くことができました。親子の関わりにおいて食事の重要性を説き、「お惣菜が悪いのではなくその差し出し方が大切である」と、時間のないお母さんを責めるようなことはなく、寄り添うような内容で心に染み渡りました。また、この世に生まれてくることは、奇跡の連続だと改めて思い起こす機会をいただきました。



演題

「奇跡のいのちをつなぐ子供たちへ」

子どもたちの未来を育むために 私たちにできること

講師 助産師・思春期保健相談士 内田 美智子氏

会



お知らせ

<http://www.miyagi-pta.gr.jp/>
☎022-295-9581・9590

第74回宮城県PTA研究大会丸森大会

期日：令和7年10月26日（日）
会場：丸森町立丸森中学校体育館
大会テーマ こども全力応援宣言

追いかけてい夢があるなら「一緒にがんばろう」と、手をつなごう。
旅立ちたい道があるなら「行ってらっしゃい」と、背中を押そう。
いつか舞い戻ったときには「おかえりなさい」と、抱きしめよう。
心豊かでたくましい子どもたちを育てるために、家庭・学校・地域社会の関係者が意見交換を行い、連携の在り方について参加者とともに考えていきます。

実行委員長 鳥居 恵理香



丸森町公式キャラクター
ねこがみとうぐいすP

丸森町合併70周年記念で制定されたキャラクターです。
丸森らしい大会にしていきたいです。

期限までの納入にご協力願います！

県P連は、会員の皆さまから納入いただく会費で運営しています。

会員の福祉の向上と児童生徒の健全な成長を図るため、計画的に事業に取り組むとともに、その事業の在り方等について見直しを行いながら、適切な運営に努めています。

県P連会費は、期限9月30日（火）までに納入いただくよう、ご理解とご協力をお願いします。

第57回日本PTA東北ブロック研究大会仙台大会

期 日：令和7年9月13日（土）分科会
令和7年9月14日（日）全体会

会 場：分科会 仙台国際センター 展示棟
全体会 東北大学百周年記念会館
川内萩ホール

大会主題：仙台で織りなす「未来」
～居場所を創るS.D.G.sプロジェクト～

編 集 後 記

5月に開催された代議員会を皮切りに今年度の宮城県PTA連合会がスタートしました。

その他「PTAみやぎ」の今号では、広報紙コンクール審査及び入賞団体の紹介や各地区の「PTAかわら版」などを通じて、子どもたちを真ん中にした活動や会員相互の親睦、単P地区Pそれぞれの特色をもった活発な姿を掲載しています。

コロナ禍が経過し、変化に応じた事業や以前と変わらない活動に共感し紹介できることを、我がことのように嬉しく思います。

そして4年間調査広報担当副会長として関わってきた私事ではありますが、令和6年度をもちまして卒業となりました。我が子がいるからこそ貴重な経験を得ることができたとしみじみ実感しています。

コロナ禍以前、小学校での単P活動は「地区対抗ドッジボール大会」や「夏祭り」学年行事では「バーベ

キュー」や「肝試し」など今より自由度が高い行事を企画して、親子ともども楽しいひと時を過ごした思い出があります。中学校では、めっきり子どもたちとの携わりが少なくなり、港まつりの「はまらいんや」参加が、唯一子どもたちを中心にした活動だったと記憶しています。

振り返れば「子どもを真ん中に」というキーワードが、そもそも私のPTA活動の在り様だったと思います。そして、子どもの成長と共に限られた期間、同じ志をもった方々に各コミュニティーで繋いでいくことを大切に活動してきました。

子どもの縁で繋がってきた様々な個性豊かな方々との出会い、多くの良き機会に恵まれ学べたこと・体感できたことに心から感謝申し上げます。大変ありがとうございました。

令和6年度調査広報担当副会長 尾坪 博史



環境に配慮した用紙・
インクを使用しています。

PTAみやぎ第196号 令和7年7月10日発行
発行所/宮城県PTA連合会・印刷/有限会社 南郷印刷